

石狩川（下流）水系外流域治水協議会 豊平川外地域部会（第4回）議事概要

■開催日： 令和5年8月7日（月）14：00～14：35

■開催方法： WEB会議

■構成員： 北海道開発局（札幌開発建設部）
気象台（札幌管区気象台）
北海道森林管理局（石狩森林管理署）
国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林整備センター（東北北海道整備局北海道水源林整備事務所）
札幌市、石狩市、当別町
北海道（石狩振興局、空知総合振興局）

■議題：

- 1) 豊平川流域における気候変動を踏まえた流域治水プロジェクトの更新について
- 2) 千歳川流域における特定都市河川指定について
- 3) その他連絡事項について
 - ・石狩川（下流）水系外流域治水協議会規約の変更（組織変更等）

■議事概要：

議題1) 豊平川流域における気候変動を踏まえた流域治水プロジェクトの更新について

事務局： 気候変動による降雨量の増加後も、流域治水プロジェクトにおいて目標としている治水安全度を確保できるように流域治水を推進することを考えている。このため、河川整備と流域対策の目的や役割分担を明確化するとともに、現在の流域治水プロジェクトを気候変動による降雨量の増加等を考慮した目標の安全度を確保できるように実効的な対策の全体像に見直すこととした。

具体的には、流域治水対策の量、質、手段の強化により早期に防災・減災を実現させる計画に更新する。

北海道開発局では、リーディング河川として、豊平川において流域治水プロジェクトの更新を行うこととした。今後は、全国109水系で順次更新していく予定。

気候変動に伴って、水害リスクが増大することとなり、気候変動アンサンブルデータで試算したところ、浸水世帯数が約21万世帯（現況の約1.5倍）、想定被害額は約2,089億円（現況の約2.7倍）になると想定され、対策の実施により、現行河川整備計画の目標と同程度の安全度を確保できることとなる。

気候変動を踏まえた整備メニューとしては、豊平川の河道掘削、豊平川上流でのダム群洪水調節機能の増強及び厚別川流域での雨水貯留などに関するものを想定している。

ソフト面では、札幌市の内水氾濫と洪水の浸水想定区域を同時に確認できるハザードマップであるとか、札幌市下水道水位情報システムを構築し地下街の事業者へ周知

を図ることとしている。今回更新したメニューを赤文字で表示している。

流域治水プロジェクト具体的な取組として「氾濫を防ぐ・減らす」対策、「被害対象を減らす」対策、「被害の軽減・早期復旧・復興」に資する対策について、それぞれ量、質、手段の強化を資料に記載している。

今後、札幌市などと連携しながら、豊平川流域における特定都市河川制度の活用に向けた検討を行っていく予定。

<質疑応答>

札幌市（河川担当部長）： 近年、豊平川流域では大きな水害は発生していないが、今後の気候変動による降雨量増加が予測されている中で、流域内の多くの資産を守るという点からも災害リスク増大への対策は大変重要であると認識。

引き続き流域全体で連携して取り組んでいくことが大切であり、特に河川管理者はご説明にあったように、例えば河道掘削の推進や洪水調節機能の増強など様々な手法を検討し、気候変動に対応した治水対策をしっかりと進めていく必要がある。

特定都市河川については、全国的にも指定される河川が増えており、流域治水を推進していくための制度であると認識。民間事業者に雨水貯留浸透施設の設置を義務付けるので活用に向けては河川管理者である北海道開発局と必要性や効果などについて、十分な意見交換が必要。

事務局： 河川管理者として確実な整備に向けて、関係機関と連携を図り推進していきます。特定都市河川の指定に向けても十分な意見調整を行っていきます。

議題2) 千歳川流域における特定都市河川指定について

事務局： 千歳川流域の特定都市河川指定については、8月に指定される予定であり、年度内に流域水害対策計画を策定することとしている。

相談窓口として、千歳川流域内の2つの河川事務所に設置しているところ。

開発事業者等に向けて、雨水浸透阻害行為に関して許可が必要であることが周知できるようリーフレットを作成している。

<質疑応答>

意見等無し

議題3) 石狩川（下流）水系外流域治水協議会規約の変更（組織変更等）

事務局： 各機関の組織改編等を踏まえて規約に添付されている地域部会構成員の修正を行った。

<質疑応答>

意見等無し

（以上）